



## 埼玉県におけるヨコシマドンコの記録

内田大貴<sup>1</sup>・佐藤日向<sup>2</sup>

## Author &amp; Article Info

<sup>1</sup> 株式会社 環境指標生物 (新宿区)  
aquariumdaiking@gmail.com (corresponding author)<sup>2</sup> さいたま市立大宮北中学校 (さいたま市)  
hinatatsu2012@gmail.comReceived 20 November 2024  
Revised 27 November 2024  
Accepted 28 November 2024  
Published 29 November 2024  
DOI 10.34583/ichthy.49.0\_68Daiki Uchida and Hinata Sato. 2024. First specimen-based record of *Micropercops swinhonis* (Odontobutidae) from Saitama Prefecture, eastern Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 49: 68–70.

## Abstract

A single specimen of the odontobutid fish, *Micropercops swinhonis* (Günther, 1873), was collected from a small area of water formed by the flooding of the Tone River in Saitama Prefecture in 2024. The species is distributed in China and the Korean Peninsula, and it has been recorded as an invasive species in Aichi, Gunma, Ibaraki, and Chiba prefectures. Therefore, this is the first record from Saitama Prefecture. In the Kanto region, it has so far only been found in the Tone River system, and there is a possibility that it may spread widely through the river system.

ヨコシマドンコ *Micropercops swinhonis* (Günther, 1873) は中国および朝鮮半島を自然分布域とするドンコ科 Odontobutidae に属する淡水魚である (Wu, 2008; 明仁ほか, 2013; 佐土, 2020; Frose and Pauly, 2024). 国外では、自然分布域外のいくつかの地域において国外外来種として移入が確認されており (例えば Wang et al., 2018; Frose and Pauly, 2024), 日本でも 2000 年に愛知県豊橋市梅田川で初めて移入が確認された (松沢・瀬能, 2008; 荒尾ほか, 2010). それ以降、主に関東地方の利根川水系を中心に群馬県・茨城県・千葉県と相次いで移入・定着が確認されている (荒尾ほか, 2010; 内田ほか, 2018, 2024; 加納・内田, 2023; 多々良沼・城沼自然再生協議会, 2023 国土交通省, 2024). 本種の導入経緯についての詳細は明確ではないが、中国や韓国で採集され、「シラサエビ」の名称で釣り餌用として流通するチュウゴクスジエビ *Palaemon sinensis* (Sollaud, 1911) やカワリヌマエビ属の一種 *Neocaridina*

sp. への混入事例が複数確認されており (平嶋, 2006; 吉郷, 2011), これを介した遺棄や逸脱による移入が指摘されている. ヨコシマドンコは食性が類似する在来魚類への影響 (荒尾ほか, 2010) や寄生虫の随伴移入 (Wang et al., 2018) などが懸念され、我が国における状況の把握と共有が急務である.

2024 年 9 月にヨコシマドンコが埼玉県羽生市の利根川河川敷の小規模水域において採集された. 本標本は本種の埼玉県初記録となるためここに報告する.

## 材料と方法

採集調査は河川に生息する水生昆虫の生息状況調査を主目的として、2024 年 9 月 28 日に、埼玉県羽生市域の利根川河川敷の氾濫により形成されたと考えられる小規模水域 (Fig. 1) で行われた. 採集場所の水深は約 60 cm で底質は泥であった. 外部からの流入は確認されず、採集当時は水域として孤立していた. 採集地点は利根川本川から直線距離で約 50 m 離れていたが、ギンブナ *Carassius* sp. やナマズ *Silurus asotus* Linnaeus 1758, タイリクバラタナゴ *Rhodeus ocellatus ocellatus* (Kner, 1866) も確認されたことから、出水時に本川と接続し、その後の水位低下により孤立水域になったと考えられた. 調査は手網 (網目 8.2 mm) を用いて行った.

採集した魚類は株式会社環境指標生物 (東京都新宿区) に持ち帰って冷凍処理後、10% ホルマリン水溶液で固定した. 後日 70% エタノール水溶液に置換し、各部の計測計数や同定を行った. 各部の計測計数は Hubbs et al. (2004) と中坊・中山 (2013) に従った. 計測はノギスを用いて 0.1 mm の精度で行い、サイズは標準体長 (standard length: 以下, SL) で表記し、その他の計測値は SL に対する百分率で示した. 鱗数の計数ならびに、前鰓蓋管の観察はサイアニンブルーによる染色後、双眼実態顕微鏡下で行った. 本研究に用いた標本の同定は、明仁ほか (2013) と藤田 (2019) に従い、同時に採集された魚類の同定は中坊 (2013) に従った. 本稿に用いた標本はミュージアムパーク茨城県自然博物館魚類標本資料 (INM) に登録および収蔵されている.



Fig. 1. Small area of water, Tone River system. Sampling locality of *Micropercops swinhonis* (INM-I-96949) in this study. Photo taken on 28 September 2024.

***Micropercops swinhonis* (Günther, 1873)**

**ヨコシマドンコ**

(Fig. 2)

**標本** INM-I-96949, 1 個体, 38.4 mm SL, 埼玉県羽生市上新郷 (利根川河川敷), 2024 年 9 月 28 日, 佐藤日向採集.

**記載** 計数計測値を Table 1 に示す. 体は円筒形で, 第 2 背鰭起点から尾部に向かいゆるやかに細くなる. 頭部はやや側扁する. 口は端位で上向き, 下顎は上顎より突出する. 吻端はやや丸い. 眼は上側に位置し, 眼の上縁は頭部背縁よりわずかに膨らむ. 眼径は両眼間隔よりも広い. 背鰭は 2 基で, 第 1 背鰭は第 2 背鰭よりも低い. 第 1 背鰭と第 2 背鰭が近接している. 尾鰭後縁は丸い. 胸鰭は大きく丸味をおびる. 腹鰭は癒合せず, 肛門に達しない. 体部は全体を櫛鱗で覆われ, 背鰭前方鱗が両眼の間にまでみられる. 前鰓蓋管は溝状で開口がみられる.

**生鮮時の色彩** 背面は暗褐色である. 体側の頭部背側から中央部は, 暗褐色の地色に灰色斑がみられ, 腹側に近づくにつれ, 頭部腹面は白色の地色となり, 腹鰭起部付近から尾柄部にかけて黄色を帯びる. 体側には 9 本の薄い暗色横帯がある. 眼下から口角部にかけて暗色斜線がある. 第 1 背鰭の基底付近には薄い暗色縦帯がみられ, 第 2 背鰭



Fig. 2. *Micropercops swinhonis* from Saitama Prefecture, eastern Japan (INM-I-96949, 38.4 mm SL). A: fresh specimen, B: live individual. Scales: 10 mm.

には暗色の縦線が6本みられる。腹鰭基部は黄色を帯び、臀鰭中央の基底部と尾鰭中央から基部にかけての腹側の一部は橙色を帯びる。

**分布** 本種は中国および朝鮮半島に自然分布し (Wu, 2008; 明仁ほか, 2013; 佐土, 2020; Froese and Pauly, 2024), 国内ではこれまで愛知県, 群馬県, 茨城県, 千葉県で移入記録がある (荒尾ほか, 2010; 内田ほか, 2018, 2024; 加納・内田, 2023; 多々良沼・城沼自然再生協議会, 2023; 国土交通省, 2024)。本研究により, 埼玉県からの標本に基づく記録が追加された。

**備考** 上記標本は縦列鱗数が34, 横列鱗数が10, 頭部が側扁する, 眼径よりも両眼間隔が広く, 背鰭前方鱗は両眼の間まで広がる, 前鰓蓋管の開口がみられる, 腹面には斑紋をもたないことから, 明仁ほか (2013) と藤田 (2019) に示された, ヨコシマドンコの特徴と一致したため, 本種に同定された。なお, 本種は Wu (2008) において1属1種のみと扱われており, 日本国内でも移入している個体はすべて *M. swinhonis* とされている (荒尾ほか, 2010; 内田ほか, 2018, 2024; 加納・内田, 2023; 多々良沼・城沼自然再生協議会, 2023; 国土交通省, 2024)。

これまで関東地方で本種の移入が確認されている茨城県, 千葉県, 群馬県の水域は, いずれも本研究の採集地と同じ利根川水系に位置している。本研究では, 出水に伴った一時水域と考えられる場所で得られたが, 利根川本川に近い場所であることや既知記録の情報を踏まえると, 既に利根川水系では, 水系を伝い広範囲に分布を拡大している

可能性が高い。

謝 辞

本稿を執筆するにあたり, 岩田明久博士 (京都大学) には本種に関する文献をご提供いただいた。岩田泰幸氏 (埼玉県立自然の博物館外部研究者), 佐藤 誠氏 (さいたま市) には調査にご協力いただいた。北澤佑子学芸員, 池澤広美学芸員 (ミュージアムパーク茨城県自然博物館) には, 標本収蔵の際に便宜をはかっていただいた。Ichthy 編集委員の木村祐貴氏および匿名の査読者には原稿改訂にあたって有意義なご助言をいただいた。以上の方々に御礼申し上げます。

引用文献

明仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ垂目, pp. 1347–1608, 2109–2211. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.

荒尾一樹・加納光樹・横尾俊博. 2010. 愛知県の梅田川中流域における外来魚ヨコシマドンコ (ドンコ科) の季節的出現と食性. 日本生物地理学会会報, 65: 43–49.

Froese, R. and D. Pauly (eds.). 2024. *Micropercops swinhonis* (Günther, 1873). FishBase. [URL](#) (11 Nov. 2024)

藤田朝彦. 2019. ヨコシマドンコ, p. 387. 細谷和海 (編) 山溪ハンディ図鑑 15 増補改訂日本の淡水魚. 山と溪谷社, 東京.

平嶋健太郎. 2006. 釣り餌用生きエビに混入する外来魚. 南紀生物, 48: 1–5.

Hubbs, C. L., K. F. Lagler and R. S. Gerald. 2004. Fishes of the Great Lakes region. Revised edition. Revised by G. R. Smith. University of Michigan Press, Ann Arbor. xvii + 276 pp.

加納光樹・内田大貴. 2023. ヨコシマドンコ, p. 61. 茨城県県民生活環境部環境政策課茨城県生物多様性センター (編) 茨城の外来種データブック 2023 版. 茨城県県民生活環境部環境政策課茨城県生物多様性センター, 水戸.

国土交通省. 2024. 関東地方 河川版 確認種一覧 魚類. 河川環境データベースシステム. [URL](#) (20 Nov. 2024)

松沢陽士・瀬能 宏. 2008. ヨコシマドンコ, p. 111. 松沢陽士・瀬能 宏 (編) 日本の外来魚ガイド. 文一総合出版, 東京.

中坊徹次 (編). 2013. 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野. 2530 pp.

中坊徹次・中山耕至. 2013. 魚類概説, pp. 3–30. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.

佐土哲也. 2020. ヨコシマドンコ, p. 150. 世界温帯域の淡水魚図鑑. 緑書房, 東京.

多々良沼・城沼自然再生協議会. 2023. ヨコシマドンコ, pp. 81–82. 多々良沼と城沼に生息する魚たち. 多々良沼・城沼自然再生協議会, 館林. [URL](#)

内田大貴・石塚隆寛・加納光樹・増子勝男・池澤広美・土屋 勝. 2018. 茨城県営生沼において採集された外来魚3種と外来エビ1種. 茨城県自然博物館研究報告, 21: 149–153. [URL](#)

内田大貴・金子誠也・碓井星二・大森健策・石塚隆寛・山崎和哉・風呂田利夫・鈴木盛智・半沢 裕子・及川ひろみ・横井謙一・加納光樹. 2024. 利根川下流域湖沼群の抽水植物帯における魚類相とその空間的変動特性. 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.23-024 (Jan. 2024), 71: 45–66 (Apr. 2024).

吉郷英範. 2011. 広島県瀬野川水域で採集されたカワリヌマエビ属の形態と釣り用エビ類に混入していた魚類. 比婆科学, 239: 9–29.

Wang, Z., Q. Deng, T. Zhou, H. Yang and Z. Gu. 2018. First record of two ectoparasitic ciliates of the genus *Trichodina* (Ciliophora: Trichodinidae) parasitizing gills of an invasive freshwater fish, *Micropercops swinhonis*, in Tibet. Parasitology Research, 117: 2233–2242.

Wu, H. L. 2008. Fauna Sinica. Osteichthys: Perciformes (V) Gobioidae. Science Press, Beijing. xxi+951 pp.

Table 1. Counts and measurements of *Micropercops swinhonis* collected from Saitama Prefecture, Japan.

|                               |             |
|-------------------------------|-------------|
|                               | INM-I-96949 |
| Standard length (mm)          | 38.4        |
| Counts                        |             |
| Dorsal-fin rays               | VIII–I, 10  |
| Anal-fin rays                 | I, 8        |
| Pectoral-fin rays             | 14          |
| Pelvic-fin rays               | I, 5        |
| Lateral scale rows            | 34          |
| Transverse scales             | 10          |
| Predorsal scales              | 12          |
| Measurements (%SL)            |             |
| Head length                   | 32.6        |
| Body depth                    | 20.1        |
| Preal anal length             | 54.4        |
| Snout length                  | 11.2        |
| Head width                    | 17.7        |
| Body width                    | 12.8        |
| Eye diameter                  | 6.3         |
| Interorbital width            | 4.9         |
| Caudal-peduncle length        | 19.5        |
| Caudal-peduncle depth         | 10.4        |
| Head depth                    | 20.6        |
| First dorsal-fin base length  | 15.6        |
| Second dorsal-fin base length | 21.1        |
| Anal-fin base length          | 16.2        |